

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和3年度第6回理事会 議事録（要旨）

□ 日 時：令和3年11月24日（水）16:00～17:15

□ 場 所：こども病院 講堂

□ 出席者：原理事長（議長）、桑野副理事長、石原理事、神坂理事、久保理事、野中理事、柳澤監事
[欠席：久留監事]

□ 議 事

【議案審議】

1 議案第7号 職員給与規程の一部改正について

<概要> 給与規程の一部改正について、事務局より説明を行い、原案どおり可決された。

（改正内容）業績手当の支給月数について、令和3年度は現行どおり年4.4月とし、令和4年度以降は0.1月引下げ年4.3月とするもの。

<主な意見等>

- 機構においては従前から福岡市の一年遅れで改正しており、コロナでも最前線で活躍していることから、今年度は据置いて来年度から引下げることも理解できる。機構は福岡市とは独立した法人であり、経営状況次第で必ずしも福岡市と一致しないこともあると思う。

【報告事項】

2 上半期の実績等について

<概要> 上半期の実績等について、事務局より報告を行った。

（こども病院の上半期の実績）

≪医療サービス≫

【良質な医療の実践】

- 新型コロナウイルス感染症外来として、北側駐車区画にプレハブ簡易診察室を4室設置（6月）
- 小児の感染拡大に備え、HEPAフィルター付きパーテーション（2セット）を追加整備（9月）
- 「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」で2件（延べ8日間）の受入れ
- 入退院支援部門の拡充（入院支援対象：7診療科→8診療科、延べ1,568人に入院支援を実施）
- 3Dプリンタを利用した医療用実体モデルの製作数8体
- 小児看護専門看護師による「アレルギー看護外来（仮称）」を2.5日/月で試行開始（9月）

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- こども病院・連携病院周産期症例検討会をWeb開催。123人受講（4月）
- 「こども病院カンファレンス」をWeb開催。延べ87人受講（4月、5月、6月、9月）
- 胎児心エコーカンファレンスをWeb開催。延べ144人受講（4月、6月、8月）
- 「福岡県小児等在宅医療推進事業」として、多職種対象の研修会をWeb開催。109人受講（8月）
- 地域医療連携室ニュースレターを発行（4月、7月）

【災害・感染症等への適切な対応】

- 災害時参集訓練の実施（8月）

≪患者サービス≫

【患者サービスの向上】

- 退院時アンケート等やホームページによる患者・家族からの意見等を踏まえ、病棟用 Wi-Fi 設備を増設し、安定したWi-Fi環境を提供（10月）
- 外来アンケートのWeb化（4月）

- ふくおかハウス及びマリンワールドと共同で「リモート水族館」を開催。患児 33 人が参加（8月）
- 「無侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）」の料金見直し（7月）

【情報発信】

- 第5回CGG（Child Grandchild Good-Care）プログラムの開催（7月）
- LINE 公式アカウントの「タイムライン」にて、COVID-19 への対応等について情報発信（12回）
- SNS（Facebook、Instagram）を活用した院内イベント等の情報発信（24回）

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- 看護部インターンシップを Web 開催。延べ 113 人参加（4月、5月）
- 小児科専攻医獲得に向けて、Fukuoka CHOPPS 2021 を Web 開催（6月 30 人、9月 34 人参加）

【信頼される医療の実践】

- 集中治療系病棟での薬剤師による TPN（中心静脈栄養）調整（R1 年度 2,329 本、R2 年度 3,313 本、R3 年度上半期 1,666 本）

《自律性・機動性の高い運営管理体制の充実》

- DX ワーキングチームによる業務改善の推進
 - ・事務管理職 東大データサイエンススクールの受講（東京大学エクステンション）
 - ・事務担当者 データサイエンス勉強会の実施（SQL によるデータ抽出、プログラミング等）

《事務部門の機能強化》

- グループウェア（サイボウズ）導入による情報共有及び業務効率化（4月）

《収支改善》

【収益確保】

- 施設基準取得：遺伝カウンセリング加算（6月）
- 保険診療検討ワーキングチームによる A 査定（病名漏れ）への対応

【費用削減】

- 診療材料及び医薬品の価格交渉の徹底（コンサル会社及び近隣医療機関への照会実施等）

《福岡市立こども病院における医療機能の充実》

- 川崎病の臨床研究
 - ・当院主体で作成した論文が日本川崎病学会(2021 年) 第 22 回川崎賞を受賞
 - ・2021 年英語論文数：全国 3 位、質（インパクトファクター）：全国 1 位
- 令和 3 年度上半期の寄付総額 4,352 千円
- 支援自販機（寄付型自動販売機）の設置個所の追加（1 箇所 1 台）

（市民病院の上半期の実績）

《医療サービス》

【良質な医療の実践】

- 看護師の負担を軽減し、看護ケアの質を向上させることを目的として看護補助者を増員（6月）
- ICU に入室する重症患者の早期の低栄養改善、経口移行・維持に資することを目的として、特定集中治療室管理料における早期栄養介入管理加算を取得（7月）

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- 特定行為に係る看護師の指定研修機関として 2 期目を開講（4月）。4 人の受講生中、1 人は地域の訪問看護ステーションに勤務する看護師
- 地域における連携医療機関や開業医向けに、メールマガジン形式の動画配信を開始（7月）
- 福岡東部オープンカンファレンスについて、Web イベントシステムを活用して開催（7月）
- 皮膚・排泄ケア認定看護師によるストーマ患者への退院後訪問（4月）、褥瘡を有し気管切開している患者の在宅移行支援として退院前訪問（6月）を実施

【災害・感染症等への適切な対応】

- 5月の第4波、8月の第5波に際しては、重点医療機関として迅速かつ適切に対応
- 地域の医療従事者向けワクチン接種について、約500人に対して実施（5月～7月）
- 福岡市による一般市民向けワクチン接種の夜間接種会場運営に協力（7月～10月）
- 抗体カクテル療法の実施（9月～）

《患者サービス》

【患者サービスの向上】

- 衣類等日額定額レンタルサービス（CSセットR）を導入（9月）（10/15時点利用率：50.1%）
- 外壁改修工事に伴う騒音対応として、耳栓・テレビカードのセットを入院患者に配布（6月～9月）

【情報発信】

- 出前講座について、口腔ケア（6月）、脳卒中（7月）に関する講演を実施
- 福岡県看護協会の事業「看護の出前授業」に協力し、看護師長が「看護の仕事、看護職への道」について中学校で講演（9月）

《医療の質の向上》

【病院スタッフの確保と教育・研修】

- 新人看護職員研修責任者研修を1人修了
- 両立支援コーディネーター4人修了（8月～10月）
- 福大ECMOセンター研修に4人（医師2人、看護師2人）参加（9月）
- 福岡県肝炎対策事業の養成セミナーに参加し、肝炎医療コーディネーターに看護師1人、医師事務作業補助者1人が認定（6月）。認定者のフォローアップセミナー修了（9月）

【信頼される医療の実践】

- 院内クラスターの発生に対し、迅速な対応により影響を最小限に抑えるとともに、速やかな事後検証を行い、対策強化を実施（9月）

《働きがいのある職場環境づくり》

- 新採・転入職員とのメンタルヘルス面談を随時実施

《経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化》

- 収益動向の分析と可視化を目的として、BIツールを導入（7月）

《収支改善》

【収益確保】

- 25対1急性期看護補助体制加算への類上げによる増収（6月）
- 査定減対策のため、主要診療科のカンファレンスに医事課及び医療事務委託会社の職員が参加

【費用削減】

- COPチームによる診材価格交渉を腎内と脳外科で実施（6月～）
- 院外倉庫委託業者変更、フィルム保管年限見直しによる保管料の削減

＜主な意見等＞

- 医師の働き方改革については、労働時間を規制する一方で、救急などの医療を確保しないといけないのが難しいところである。生産性の向上として、医師事務作業補助者が医師の文書作成を補助したり、特定行為研修を受けた看護師が医師の患者対応を補助し、その分看護師の業務の一部を看護補助者が行うなど、全体でタスクシフトを進めており、人員確保や教育が課題となっている。
- コロナの影響は続いており、今は少し落ち着いているが今後の見通しは不透明である。